

熊ノ田遺跡の本発掘調査を実施

熊ノ田遺跡は吉田本町集落の南側に広がる平野部に位置しています。遺跡の北側には本町城跡、南側には宮小路城跡が周知されています。

調査は、県営ほ場整備事業（本町地区）の排水路工事に伴って、平成29年10月から平成30年2月にかけて実施しました。

出土した土器などから、鎌倉時代から室町時代にかけての中世の遺跡であることがわかりました。排水路工事に伴う調査ということで、非常に狭小な幅の調査区の設定にとどまり、遺跡の

詳細については不明な点が多い状況でしたが、遺跡の中央北寄りの調査区では井戸跡と考えられる遺構が5か所検出され、中から数珠玉や箸などが出土しました。またその内の一つからは曲物で作った井戸枠が2段重ねに据えられて出土しています。こうした井戸跡の周辺からは柱穴も確認されており、集落内での水場としての利用が考えられます。

整理作業を平成30年度に実施し、報告書を刊行する予定です。従って詳細については整理作業後の成果、特に本町城跡などの周辺に位置する中世城館との関連性の解明に期待したいところですが、前述のようにほ場整備事業に伴う水路工事計画地での発掘調査ということで、遺跡全体の内容をつかむまでには至らなかったことから基礎的な資料の積み重ねに限定されそうです。ただしこうした地道な資料の蓄積によって地域の歴史研究を行ううえできわめて有効な資料となることは間違いありません。



遺跡位置図



調査風景



井戸跡（曲物枠1段目）

『長善館友の会』が発足～設立記念講演会も開催～

平成 29 年 9 月 30 日、「長善館友の会」の設立総会が開かれ、正式に友の会が発足しました。幕末から明治にかけて、多くの優秀な人材を輩出した私塾長善館の功績を知ってもらい、またその精神を後世に伝えていくことを目的としています。友の会としての事業内容は、会報の発行や催事案内、研修会の企画などで、今年度については早速 12 月に、友の会を先進的に運営している「諸橋轍次記念館」への視察研修も行われ、多数の方が参加されました。

学校教育の場などでも長善タイムや長善館学習塾といった長善館の精神に沿った事業が展開されています。今後は友の会の事業展開も合わせ、より多くの理解者や賛同者を募り、長善館及び史料館の整備促進が期待されるところです。

長善館のことをもっと知り、未来に向けた支援に取り組むため、友の会に入会してみたいかがでしょうか。

●設立記念講演会も開催

また設立総会后、筑波大学の中野目徹教授による設立記念講演会も開催されました。『明治 20 年、長善館をめぐるドラマ』と題して、2 代目惕軒先生、その息子柿園先生の日記を解説した成果を交え、塾の存続、廃止をめぐる内情についての詳細ないきさつについて話されました。



設立総会の様子



講演する中野目教授

【文化財を守ろう】 防犯対策の徹底のお願い

昨今、汚損や盗難による文化財の被害が全国的に相次いでいます。非常に残念なことですが、文化財の被害は身近な問題となっているところです。

文化財所有者や地域の皆様には日頃から注意をされていることと思いますが、さらなる防犯にご尽力くださるようお願いいたします。

文化財を汚損や盗難などの被害から守るためには、日頃から防犯意識を絶やさず、防犯対策を徹底することが非常に重要かつ有効です。

文化財は後世に伝えていくべき貴重な地域の財産です。

文化財の所有者はもちろんですが、文化財の近くにお住いの方も含め地域全体の問題として、文化財に対する防犯への意識の向上と周知を徹底し、地域の皆で文化財を守っていきましょう。